

ブナ科の樹木の果実は「どんぐり」と呼ばれています。ブナ科の樹木は主に「クリ」「シイ（椎）」「ナラ（檜）」「樫（カシ）」があります。クリの木の果実は「クリ」です。シイの木の果実は「シイの実」、ナラの木の果実は「ナラの実」、カシの木の果実が「カシの実」です。私の勤務する大学構内には、上記の4種類すべてがあり、秋の自然教材として役立っています。

私の勤務する研究所と大学生協（食堂や売店）の間の「日時計広場」に、シラカシ（白樫）の木が何本もあります。秋にはたくさんのどんぐりを落とします。シラカシの実は、果実の本体（堅果）にかぶさっている帽子（殻斗）に同心円状の模様があるのが特徴です。どんぐりが若いうちは、この殻斗が堅果全体を覆い、まだどんぐりらしく見えません。今の季節にしか見られない「カシの実」の姿です。

（2024年9月上旬／お茶の水女子大学構内）

